

大好きな勝山でタップを踏む



ジオアリーナでのタップ教室



浦上 雄次さん (41) 北郷町下森川
 明日香さん (34)
 七歩ちゃん (2)、一踏くん (4か月)

国内外でタップを踏むタップダンサー。
 2015年に東京都から家族と移住し、勝山を
 拠点に活動中

「タップダンスの普及を目指すために必要なもの。勝山での生活は、多くのことに気づかされていく。勝山は大好きなまち」と語る浦上さん。一度原点に戻ってタップダンスと向き合いたいと考えていた際、勝山に移住したそうです。

「リズムを刻む。タップを踏むという動作は、本能的に人に備わっていると思う。子どもからお年寄りまで楽しめる可能性を秘めるタップダンスの魅力是非体験してほしい。将来的には、勝山の皆さんとタップを踏めたら面白い」と笑顔で語りました。

現在は、勝山を拠点に、日本や海外の各地で活動しており、勝山の自然をテーマにした作品作りにも取り組んでいます。季節ごとの景色、におい、温度など肌で感じたものを作品にしたい。完成したら自信を持って勝山の自然で作った作品としたい。そうです。

市内の幼稚園や小学校、中学校でタップを紹介、体験できる

勝山ライフ

KATSUYAMA LIFE

～それぞれのかつやま暮らし～

移住者も定住者も住みよいまちを目指して



日本の人口減少が続く中、都市部への人口流出は今後も上昇していくと予測されています。

一方で、就職や退職、結婚や出産、子育てなどの人生の節目に、都会のあわただしい生活から抜け出し、地方都市でのスローライフを求めてU・ターンされる方が増えています。

勝山市の現状

勝山市の現状を人口から見ると、平成2年に年少人口（0～14歳）と老年人口（65歳以上）が逆転して以降、その差は開き続けており、平成27年の国勢調査では高齢化率が34%に達しました。

また、昨年度の自然動態（出生と死亡の差）は出生が156人、死亡が384人で228人の減で、出生率は1.53でした。社会動態（転入と転出の差）は転入が420人、転出が573人で153人の減となりました。

どちらもこの3～4年は同程度で推移しており人口は年々減少しています。

勝山市の取り組み

市では、出生率と社会動態の減を改善することで人口減少を緩和することを目指しています。そのために結婚・出産・子育てへの支援策を充実、就労支援体制の充実、生活環境基盤の整備、子どもたちが市に愛着を持てるような教育など、様々な施策に取り組んでいます。U・ターン人口の増加と若い世代の転出の抑制を図ります。

勝山市での暮らし

外から見た勝山市の暮らしとはどんなものでしょうか。地元に住んでいるだけでは気づけない勝山市の魅力にはどういったものがあるのでしょうか。

今回の特集では、U・ターンをされた方に、実際に勝山市に住んでみて感じたことなどを聞き、その魅力をレポートされています。また、移住者をサポートされている方にもお話を聞き、その思いをお伝えします。



バンド「つながり」



澤村さんの農園で働く大久保さん

大久保哲朗さん (37) 元町2
 国内外で活動する「優」のメンバーとして活躍。2016年に奈良県から家族とUターンし、家業の大作寺を継ぐ。

「つながり」を大切に 和太鼓の魅力伝える

「音から、人見知りだったが、和太鼓を通して、人と繋がる楽しさを知り、そして、世界が変わった」とこれまでプロとして世界各国で演奏してきた和太鼓について語る大久保さん。また、「太鼓を打つとは自分を出すこと」とも話され、これまでの和太鼓指導の中で、表情や態度が急に変わった子どもたちをたくさん見てきたそうです。

「今までは、勝山の子どもたちにも和太鼓の活動で学んだ多くのことを伝えていきたいと考えています。そんな大久保さんが現在熱心に取り組んでいるのは、勝山に戻ってきて同級生3人で結成した『つながり』というバンド活動です。『つながり』は、和太鼓、三味線、民族楽器の演奏者が大久保さんの帰りをきつかけにつながりました。市内の小学校や県内外のイベントなどにも声をかけてもらえるようになり、活動の幅が一気に広がってきているそうです。

国内外で活動する「優」のメンバーとして活躍。2016年に奈良県から家族とUターンし、家業の大作寺を継ぐ。